

第4回中野市保育所あり方検討懇話会会議録（要旨）

日 時	令和2年10月9日（金） 14:00～16:20
会 場	会議室 43
出席者	<p>小林芳文委員、片所年子委員、小野良一委員、宮澤栄一委員、中嶋祐子委員 松矢美知委員、黒岩文子委員、富岡幸子委員 8名（欠席：樺澤一夫委員、岡村将翔委員、高木さやか委員、町田真里子委員）</p> <p>【アドバイザー】太田光洋先生</p> <p>【事務局】 子ども部長 小林由美、保育課長 戸田修三、課長補佐兼保育係長 堀米一志、 施設係長 豊田正樹、施設係 高藤直樹 5名 計14名</p>
内 容	<p>開会</p> <p>長野県立大学健康発達学部（こども学科） 教授 太田光洋先生による講話 「アンケートの自由回答からみた課題について」</p> <p>（太田先生）</p> <p>適正規模というのは、この規模が適正だというのは特にならない。 従来、保育園というのは、30人単位で区切られていてそれぞれ、人数が少ないほう が、子供を保育する一人当たりの単価が高くなる。 最近は3歳未満児の入園が増えてきているために、もう少し規模が大きくなって きているのが全体の傾向とあっていい。</p> <p>園の先生方が、全ての子ども達の名前を覚え、子どもの顔と名前がわかって、家 庭、保護者の状況もおおよそ、共有できるような人数が、保育をやるうえでは大事。 各学年にどれくらいの子供で保育するのか、子ども達の成長、発達にいい のか、考える必要がある。</p> <p>広い園庭、園舎、ハード面の作り方によって活動がいろいろ工夫できる。そうい ったことを踏まえて適正規模を考えていく。</p> <p>保育の質、内容については、公立、私立で差があるとはいえない。どっちが劣っ ているということはない。むしろ保育の質、内容については事業者の考え方、公 立でいえば園の考え方にかなりよる。</p> <p>幼児期までの子供にふさわしいやり方が大原則、小学校のように教えるという形 ではない。</p> <p>保育園はある程度の均一性が保たれなくてはいけない、基本的には幼稚園みたい に方針が、各園ばらばらにはならない。そういう意味で保育園はどの地域に行っ</p>

でも、そんなに違いはない。

民間の園がたくさんできて、公立の園が少なくなり、園の特色がそれぞれ違うことになってしまうと、今のように希望の園に入れないという状況になると難しい。特色のある園というのは、あまり多すぎではいけないと考えられる。

公立の園というのは、その地域のスタンダードになる、つまり公立の園が一定数残っていて、そこが質の担保をする。公立の園に負けないようにやろうという基準になる。

公立の園は一定数あったほうがいい、公立の園のレベルアップ、質の向上が、その地域全体の保育の質を上げることになる。

民営化の場合、公立に園としてやっている間に、引き継ぎをやるケースが多い。これが必ずしもうまくいくとは限らない。

そもそも事業者が公立の園のやり方をそのまま引き継ぐわけではないので、そこに多少の考え方の違いはある。そういうところを保護者にどういうふうに説明して、理解してもらえるかというのが大事。

統廃合のメリット

子どもにとって集団規模によって育ちあえる環境ができることが大きい。

市の財源確保ができて、他の子育て支援のどこに反映されているのかをわかるようにすることが大事。

多少、規模が大きくなっても、一人ひとりに目が行き届く保育園はできる。そういうところの不安を取り除いていくことが大事。

長野県は小学校の不登校が全国で3番目に多い。クラス、先生が変わらないことが原因と言われ、人間関係が固定化してしまうとずっと同じクラス、先生で持ち上がってくることが、長野の教育は伝統的にわりと多いと思われる。ずっと少人数でということではなくて、いろんな人、先生と出会うことが必要。

統廃合に対する期待

統廃合すると大体、保育サービスが拡充する。

子育て支援として、休日保育をもっとやってほしいと意見があるが、全園でできるわけではない。そのような機能分担をするとか、どういう内容で保育をするのか精査していくのが大事。

公立保育所の役割

例えば、重度の障害をもった子の受け入れが民間の園だとなかなか難しい。

どうしても公立の園が担わなければいけない役割というのがでてくる。

公立保育所の役割の確認というのは、公立保育所が中野市の保育所のスタンダードになるという意味。

民営化によるメリットの確認、デメリットの対応

メリットとしては、財政負担が小さくなる、コストが下がると思われる。一般的に保育サービスが拡張されることが多い。

保育の選択肢が増える、既存園の刺激になる。

民営化されると公立の園に比べて正規職員の割合が増えると思われる。

デメリット、懸念される事項としては経営者の方針によって保育方法に違いがでてくる。

企業は必ず営利目的。今、都市部の新設の保育所はほとんどが企業立。子どもが減るのが分かっているから社会福祉法人とかが手を上げない。

移行する子どもへの影響は、特に先生の交代や、保育内容、方法の違い。

保育士の確保、わりと多いのは、公立の園で働いていた非常勤の先生を常勤にして雇うケースが多い。そうすると公立の園の保育士が足りないということになってしまう。

今、行われている保育や子育て支援について、併せて検討していかなければならない。

今後、更に少子化が進み、共働きも更に増える。もっと高齢になってからも働くお年寄りが増えていく、お年寄りに子どもを見てもらうことも難しくなってくる、そうなったときに保育所の役割は今よりもっと大きくなる。子育て支援も含めて考えていかないといけない。

若い保育士の先生たちをどういうふうに育てていくか、研修みたいなものを含めて考えなくてはならない。

あずけるのは当たり前ではなくて一緒に育てていく、例えばメッセージとしては、サービスができたからどんどん利用してくださいではなくて、そこにも選択肢があっている。0～1歳の時は家で育てたいという選択肢もあっているし、あずけてしっかり働きたいという選択もあっているが、こればかりがいいんじゃない、こういう育て方もあるよ、という啓発とかメッセージも考えたほうがいい、子育てしながら働きやすい街のデザインを一方で描きながら、統廃合を考え、民営化を検討していくことが大事。

4 協議

(委員)

適正規模と言われているが、その地域によっても違いがあるが、一番考えて欲しいのは適正規模でクラス編成していかないと、大きくしたからいいとか小さいから悪いとかそういう問題でないとと思う。

(先生)

今、中野市の小学校の1クラスの規模は何人か。

(委員)

多くて 35 人、少ないところは 4 人。

(先生)

長野県は小規模校が多い、4 分の 1 くらいが小規模校。
保育園の年長クラスの人数は。

(委員)

30 人の年長クラスだと、みなみ保育園だけです。
平野保育園は 20 人のクラスが 2 クラスです。

(委員)

40 人にするとすれば保育士が持ち出ししないとできないってことですよ。

(事務局)

クラスが増えれば、保育士の配置もします。

(委員)

基本的に国がきちっと 20 人なら 20 人という基準をだしてもらえれば、その分、お金も国からくることになる。
そういうふうにしないと、市町村財政が厳しいから統廃合、民間委託と、いかに得ないんじゃないでしょうか。民間委託になったから、お金が豊かになるわけではありませんので。適正規模をどう考えるか、とても大切なことだと思います。

(先生)

4～5 歳は法的には一人で 30 人なので、4～5 歳が 15 人ずつしかいなかったら、クラスを一つにしてみようと思えば保育基準は満たす。2 クラスつくれば、先生は 2 人必要になり、1 人分は持ち出しになる。国の基準がすぐには変わらない。
経済的に考えれば、縦割りにする方法もある。

(委員)

未満児保育について、0 歳児って産休明けから 2 歳に近い子までいるんですね。あの時期に 2 年間の差があるわけですよ。適正という考え方をもう少し深く考えないと単なる経済効果だけで考えると非常に現場が厳しくなっていくと思います。

(先生)

0 歳の子供を一ヵ月保育するためにかかる費用はわかりますか。
東京のような人件費の高い自治体だと一人あたりの保育単価が月 40 万くらいに

なっている。それだったら思いきって0歳児を入れて、育てる人に月20万くらい手当てをだすような。考え方としてはできるかもしれません。

(事務局)

今回のアンケート、集計中ではあるが、小規模の保育園のお母さんたちは、小規模でもいい、大きい保育園に通ってらっしゃる方については、やはり大きいほうがいいと二極化しており、それぞれ違う園の特徴かと思われる。

民営化を幼稚園と勘違いされている方が多く、保育料が上がると不安になっている方が非常に多いと感じている。

幼保連携型認定こども園をつくれば、親の働き方に関わらず、在籍できるので、働いていた人が仕事を辞めても、そのまま辞めないでその園にいられる。

幼児教育はどこでも一緒だが、イメージとして教育的というイメージがこども園のほうが保育園よりある。

幼稚園が教育的、保育園がその対極だとしたら、こども園がその真ん中で、ちょっと教育もやるというイメージ。ただ、それが教育ではなく、普通に保育園でやっていることが教育で、そこはなかなかかわかってもらえない。

(委員)

民営化のメリット、デメリットの運営費のゆとりができるかと説明があったが、なぜ一般的にゆとりがでるのか。

(先生)

公立の園はどこも財政的に苦しく、保育環境の整備にお金をかけるのが大変なところが多い。そこを民営化すると、市の一般財源ではないところから運営費がくるので、園で独自にお金を使える。およそ人件費が7から8割、残りのお金を教材費、建て替えのために貯めておくこともある。市が運営しているときよりも、使えるお金が増えるということ。

(委員)

どうしてお金が残るのか考えるが、やっぱり人件費が一番です。

(先生)

例えば、5歳児が20人しかいないところに先生をつけていたら、そこには一人分はでてこない、3分の2人分しかお金がこない。あとの3分の1分はもらったお金でやりくりしないといけないということ。

人件費が高くなるということはどういうこと。

(委員)

園の保全がされない。0歳児がいる園なので安全面で危険がある。0歳児のケア

がとても必要な園は、どうやっていけばいいのか。

(委員)

公立は、一般財源から給料が出ているが、民間の園は一般財源がない、そういう意味では、公立なみの賃金をなかなか払いきれないのが民間。

乳児保育、障害保育、親との関係など経験を積んだ職員が大切になってくる。人さえいればいいという問題ではない。

(先生)

どこの自治体も苦しいので、ゆとりある基準をもっていたところも国基準に変えてきているところ。今は、待機児童が増えて、国基準に準じてそろえて、多く入れている。そういう基準をもっているところは、これから子どもが減ってきたら、市の基準に戻す。戻すことによって、保育所はなくならないし、維持ができるというしくみをつくっているが、古い園舎でも、いい保育をしているところはたくさんある。

(委員)

民間も公立も同じ中野市の保育園として新しくするなら、計画をたて、必要な部分、保育の大事な部分を頭にいれておいていただきたい。

公立がしっかりできることは民間にとっても大事なこと。公立のスタンスが悪くなると民間はもっと悪くなる、公立がきちっと維持していくことの大切さを感じている。

(先生)

福祉法人が手をあげないというのは、子どもが減っていった時、経営を続けられるかわからないから手をあげない。経営を担保するために、公立の定員を減らしていくことになる。民間がちゃんと経営を続けられるよう、公立で人数調整していくことをやっているところもある。子供が減っていくのは見えているので、その時、どうしていくのか。

中野市が、子どもが減ったら子どもの面積を1.5倍にするとか保育士の数を国基準よりもっといい基準で配置する。というような方針をもっておく、そうすれば施設も生きるし、保育士も残れる。そういうのも、子育てにちからをいれている意味でいい。

(委員)

このアンケートの自由意見をもって、市はどう感じたのか、民間の保育園にもフィードバックしていただきたいと思う。

(事務局)

市民の皆様の意見を吸い上げ、精査、懇話会の提言書を整備して、保育所整備計

画を策定していく。建物、保育サービス、民営化全てにわたっていく。
統合について、前向きな意見が多いと感じた。そのまま反映ではなく、分析をし、
次回以降に市の方向性をだしていきたい。

(委員)

これは想定内の意見か。

(事務局)

いろいろご意見をいただいた。説明が足りないところもあるが、民営化について
抵抗感がある。整理させていただきたい。

(委員)

このアンケートをしたことによって統廃合、民営化の不安ができた。何かケアを
していただきたい。

(事務局)

提言書を基に、計画を整備し、審議会で諮っていきます。

(委員)

保護者が園長に相談したとき、大丈夫だといえるような、園長に対するフォロー
は。

(事務局)

園長会等で、統一的な考え方を整理していきたい。

(事務局)

このアンケートで、民間保育園に入れて良かったという意見が多い。本当は公立
に入れたかったが、私立に入って良かったと思っている方がたくさんいると感じ
た。公立ありきだった部分は反省しなくてはいけない。

(委員)

小学校の統合のタイミング、流れのなかで、強い反対の意見をもっている方は少
なかったと思う。大勢すぎるのが適正規模ではないというけれども、少なすぎて
のも適正ではない。

小学校は、その地区のお子さんが集まって小学校になるわけで、つながりのある
流れである。

子どもが増える見込みもない、そこにお金をかけて新築ではなく、他の園へ通う
ようなことを提言のなかでお示しするタイミングの時期かなと感じている。

具体的な検討、市の方針を明らかにする懇談会だと思う。どこの園を選んでも、
同じレベルの保育が補償されている市となれば、抵抗も少なくなるのではない

か。

(委員)

保護者の方が勉強していると感じた。保育園の先生もがんばっていることをもっとPRすることが、公立の活性化にもなるし、私立も含めてレベルが上がってくると思う。

保護者は情報を求めていると感じた。他市町村の様子も気にしている。

保護者の不安をどのように取り除いていくかが大事。

(委員)

保育園をつくってきたおじいちゃん、おばあちゃんがいると思う。

今いる保護者だけではなく、地域の皆さんに説明していくスタンスが大事だと思う。

(委員)

永田の小学校、一年生は4人、ある程度の人数が集まった方が育ちの面でいいと思う。

次回、開催日は11月5日(木)とする。

閉会